



## 経験を積んで、自分の可能性を広げよう

会員 山口 智寛

### 弁護士を志した理由

私は、十代の頃にトム・クルーズ主演の「ザ・エージェント」という映画を見て、主人公のスポーツエージェントが強烈に格好良いと思った。そして、その思いはやがて弁護士になってスポーツ代理人として活躍したいという形に変わっていった。私が弁護士を志すきっかけとなったのは、一本の映画だったのである。

### 弁護士の仕事

そんなミーハーな思いから弁護士を志したこともあって、弁護士が実際にどのようなことを考えてどのような仕事をしているのかは、あまり理解していなかった。例えば、医者が病気の患者に対して何をすべきであり実際に何をしているかということは極めて明確にイメージできるのに対して、弁護士に関してはそのようなイメージを持つことはできなかった。

その後、司法試験に合格して修習生になり、指導担当弁護士に張り付いて仕事内容を見る機会を得て、私は弁護士の仕事の実態を知った。現実の弁護士は、依頼者と共に泣いたり笑ったり怒ったりし、時には金銭は度外視して奔走していた。私は、弁護士の仕事というのは大きな責任を伴う大変な仕事であるけれども、日々変化に富んでいて人間味溢れるすばらしいものだと感じた。そして、自分ももうすぐそのような職業に就くのだと思い、身が引き締まる思いがした。

### 弁護士になって

実際に自分が弁護士になって、すぐにその仕事の大変さと責任の重さを味わうことになった。仕事の分量

が多いことは当然のこと、依頼者から罵倒されたり、全く知らない分野の法律問題に直面して途方にくれたり、見たこともないような多額の金銭取引に関与したり、私の今までの人生経験上あり得なかったような事態に直面する毎日だった。

他方で、依頼者から感謝の言葉をもらったときの喜びや、難しい問題を解決したときの充実感も、今まで味わったことがないようなものだった。そんなときは、仕事帰りに美味しい酒を飲んで、気持ち良く眠りにつくことができた。

私は他の職業に就いたことがないので比較することはできないかもしれないが、今のところ、こんなにすばらしい職業は他にはないのではないかと思っている。大きな責任を負い、それを果たしていくというのは、最高の名誉ではないかと思う。

### 将来の目標

冒頭で述べたとおり、もともと私はスポーツエージェントになりたくて弁護士を志したのであり、その希望は今でも変わらず持ち続けている。ただ、それは赤い糸で結ばれている運命の人に対する気持ちに似ている。いつか巡り会う日を夢見て日々切磋琢磨していれば、自ずと巡り会えようし、運がなければいつまでたっても巡り会えないかもしれない。

今の私にとって重要なことは、とにかく沢山の経験を積んで、可能な限り自分の可能性を広げることだと思ふ。そういうわけで、私は、自分が弁護士として進むべき道や持つべき得意分野というものはあまり考えずに、日々目の前の事件に取り組んでいる。